

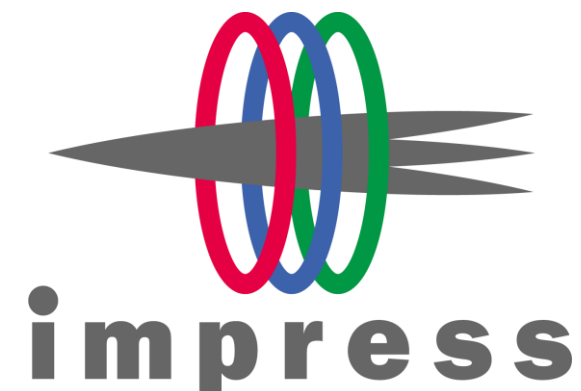
2025年3月期第2四半期（中間期）

決算補足説明資料

株式会社インプレスホールディングス

（スタンダード：9479）

2024年11月11日



本資料の取り扱いについて 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性あるいは完全性について、何ら表明及び保証するものではありません。

- 1. 2025年3月期第2四半期 業績**
- 2. 事業区分・セグメント別業績概要**
- 3. 2025年3月期 連結業績予想の修正**

(参考資料)当社グループの概要

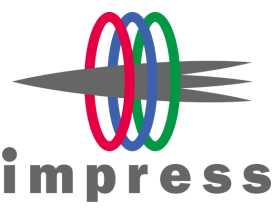
1. 2025年3月期第2四半期 業績

● 営業利益は▲270百万円も、主に第2Qの改善で、前期比+99百万円と損失幅は縮小

- 当連結会計年度は、出版事業の収益力の低下で営業損失を計上するに至った前連結会計年度の状況を受け、出版事業を中心とした事業構造改革による不採算製品の整理及び固定費の削減をベースに、商品付加価値の向上による収益性の回復に取り組むことで、営業利益の黒字転換を目指しております。
- 売上高は、ネットメディア・プラットフォーム事業は増収も、前期に実施した事業構造改革に伴う刊行点数の大幅な減少とカレンダーの出荷の一部が第3Qにずれ込んだこと等により、出版・電子出版事業が減収となり、連結売上高は6,852百万円（前期比▲2.6%/▲185百万円）。
- 減収も、前期の大型書籍（ChatGPT関連書籍）の反動等をプラットフォーム事業の堅調な推移や在庫評価の改善等による売上原価の減少もあり、限界利益率が前期比で若干改善。また事業構造改革の実施等で固定費が想定通り削減され、営業利益は▲270百万円（前期比+99百万円）と減収の影響をカバーし、損失は縮小。

- **ネットメディア、プラットフォーム事業は堅調に推移
出版・電子出版事業全体では減収も、既刊書籍は返品減により増収基調に転換**
 - 出版・電子出版は、雑誌・ムックは堅調、既刊書籍の返品改善は想定より遅れたものの、第2Qで減少傾向が定着し、増収基調に転換したものの、新刊書籍については事業構造改革と刊行遅れの影響による刊行点数の減少（▲48点）や前期の大型書籍の反動等で大きく減収、加えて第2Qから刊行を開始したカレンダー出荷の一部が第3Qにずれ込んだことも影響し、売上高3,594百万円（前期比▲4.0%/▲150百万円）。
 - ネットメディア・サービスは、ITセグメントを中心にデジタル広告が堅調な推移を維持したことに加え、Minecraftのコンテンツ販売の増加により、売上高937百万円（前期比+8.6%/+74百万円）。
 - ターゲットメディアは、ターゲット広告の減収により、売上高463百万円（前期比▲5.3%/▲25百万円）。
 - プラットフォーム事業は、電子コミックPFとデジマートの堅調な推移により、売上高1,294百万円（前期比+1.0%/+12百万円）。
- **セグメント別では、第1Qに続きデザイン、航空・鉄道の営業損失が縮小、音楽も損失縮小に転換**
- **2025年3月期の通期業績予想は、第2四半期の業績予想の修正に伴い、下方に修正**

2025年3月期第2四半期 連結業績



単位：百万円

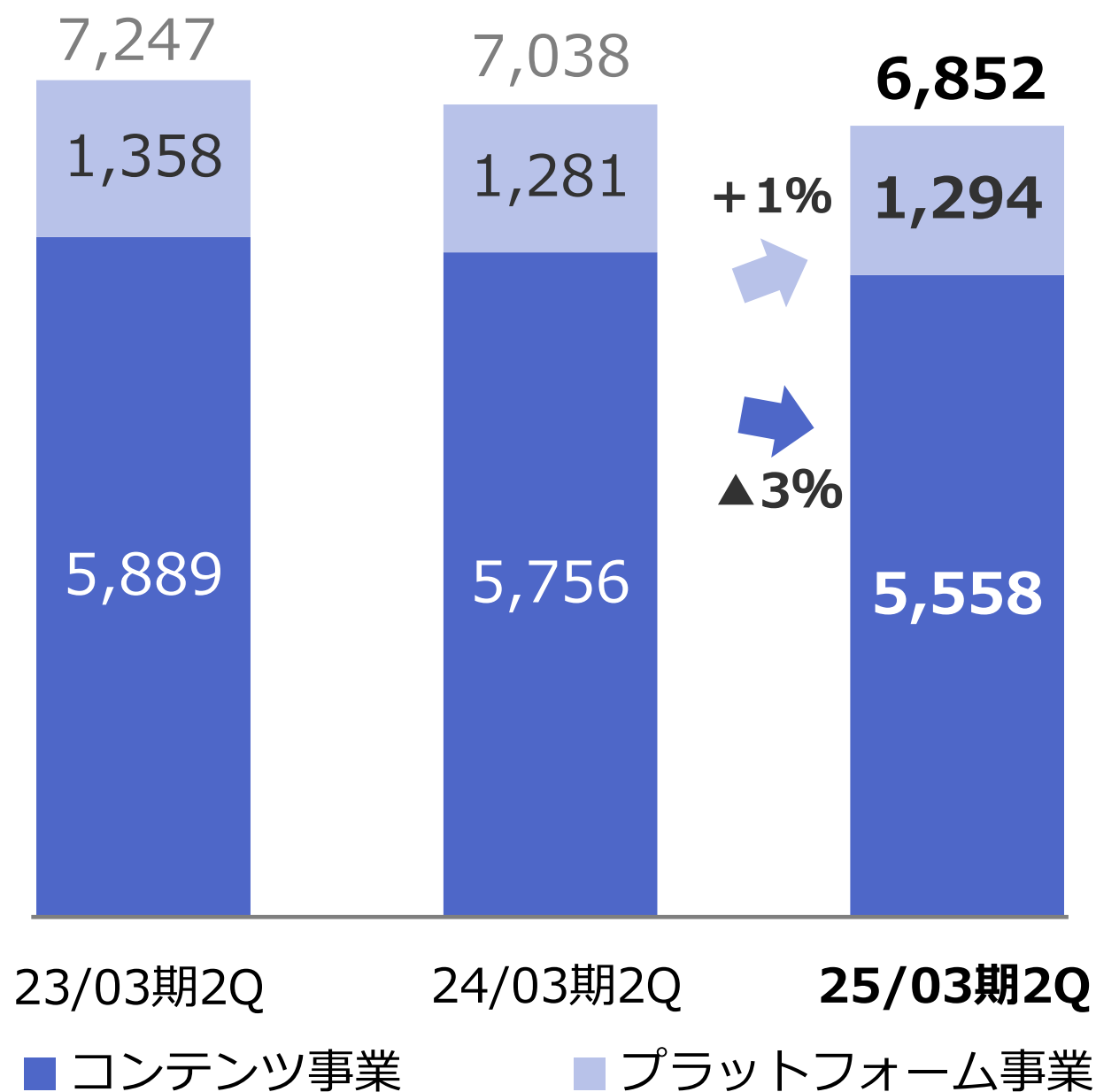
	24/03期 第2四半期	25/03期(当期) 第2四半期		
	実績	実績	前期比	
売上高	7,038	6,852	▲2.6%	▲185
営業利益	▲370	▲270	—	+99
経常利益	▲333	▲243	—	+90
当期純利益	▲371	▲266	—	+104

連結業績推移 (3期比較)

単位：百万円

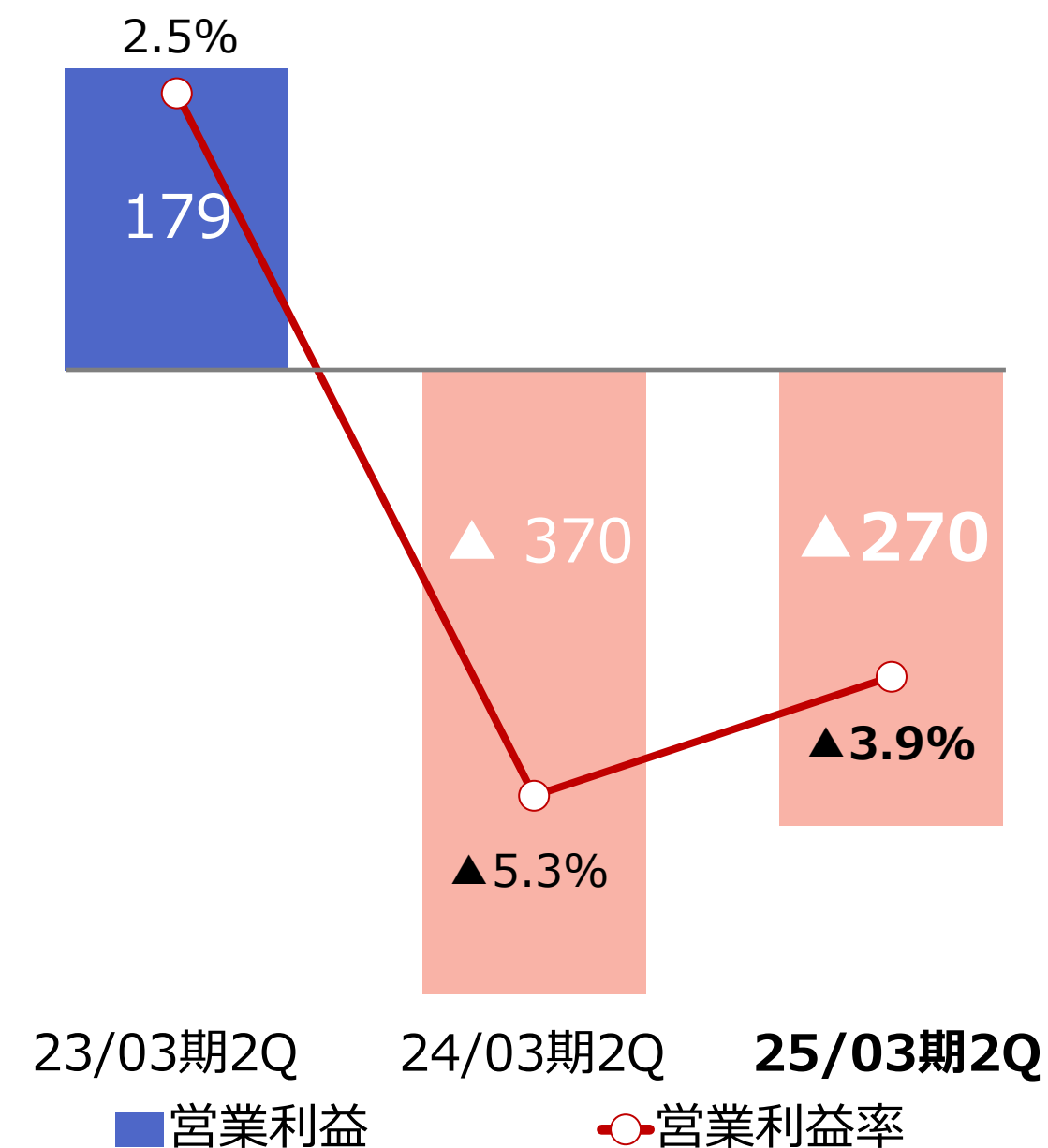
売上高

事業構造改革に伴う刊行点数の減少等の影響による出版・電子出版事業の減収等により売上高は減収



営業利益・営業利益率

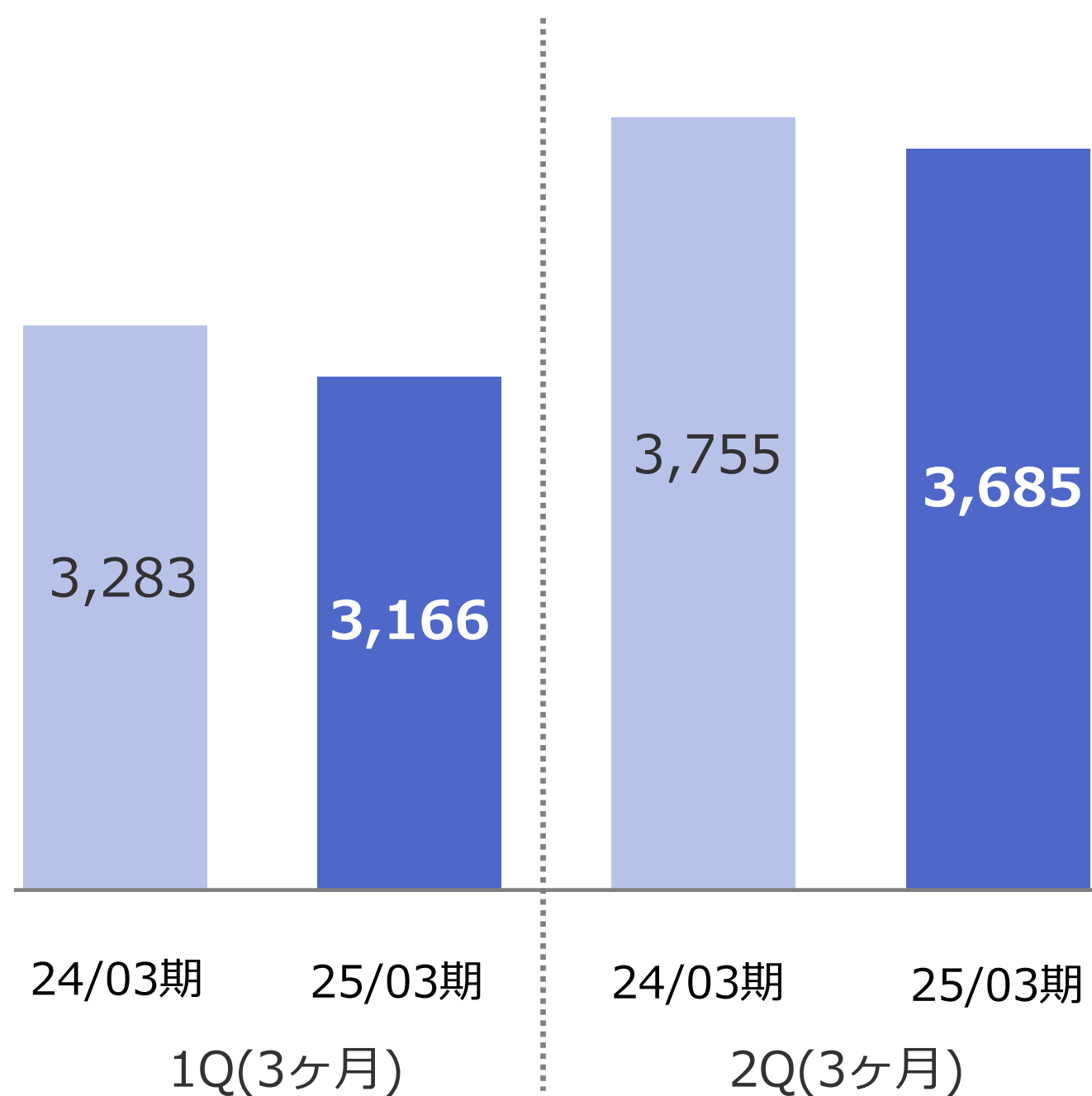
減収も、売上原価や事業構造改革による固定費の減少等により収益性は改善し、損失幅は縮小



連結業績推移（四半期比較）

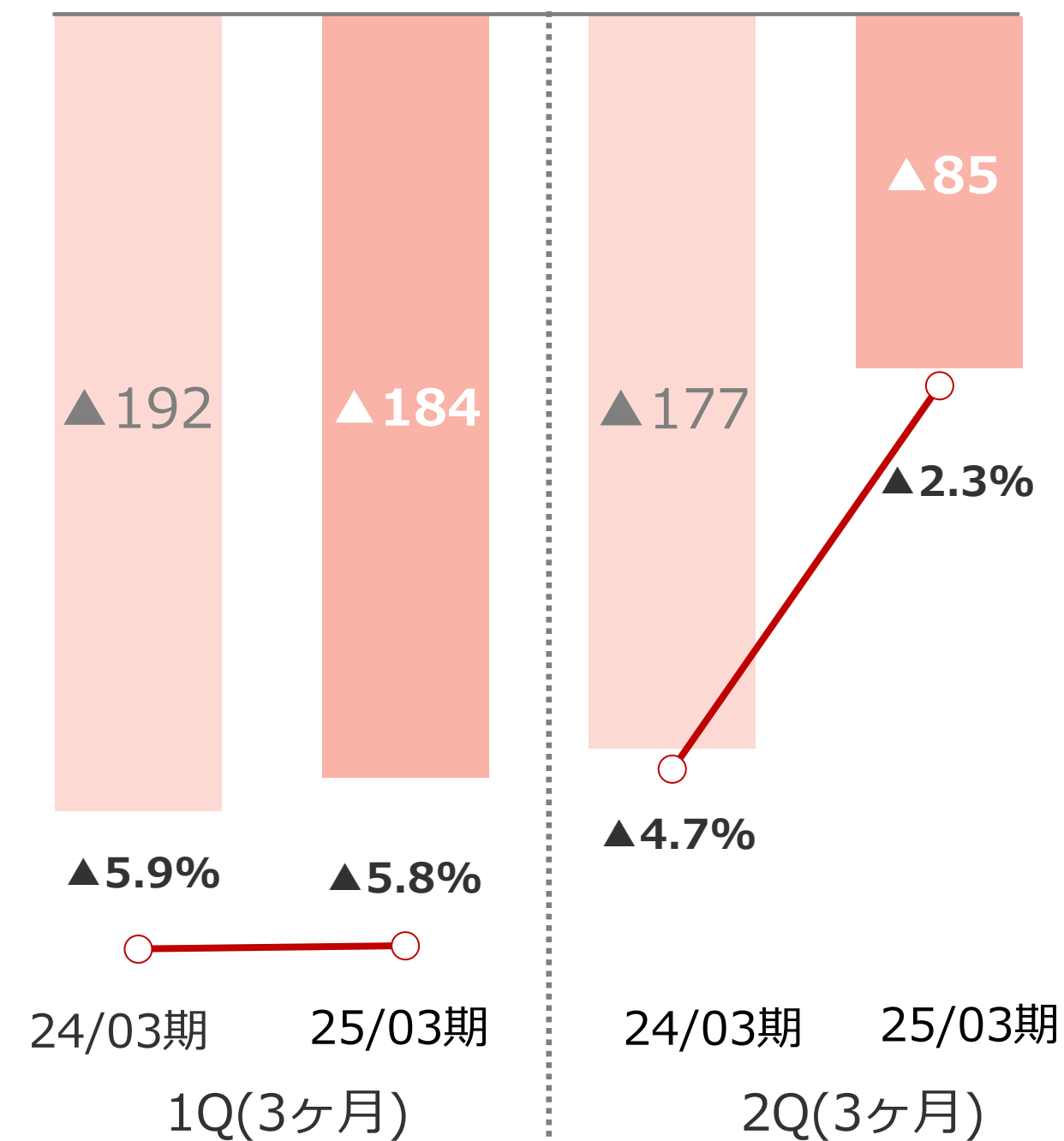
単位：百万円

売上高

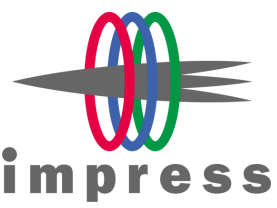


営業利益・営業利益率

事業構造改革の影響等で売上高は減収傾向も、2Qは在庫評価の改善等もあり、収益性は改善の動きとなった



2025年3月期第2四半期連結業績 限界利益比較



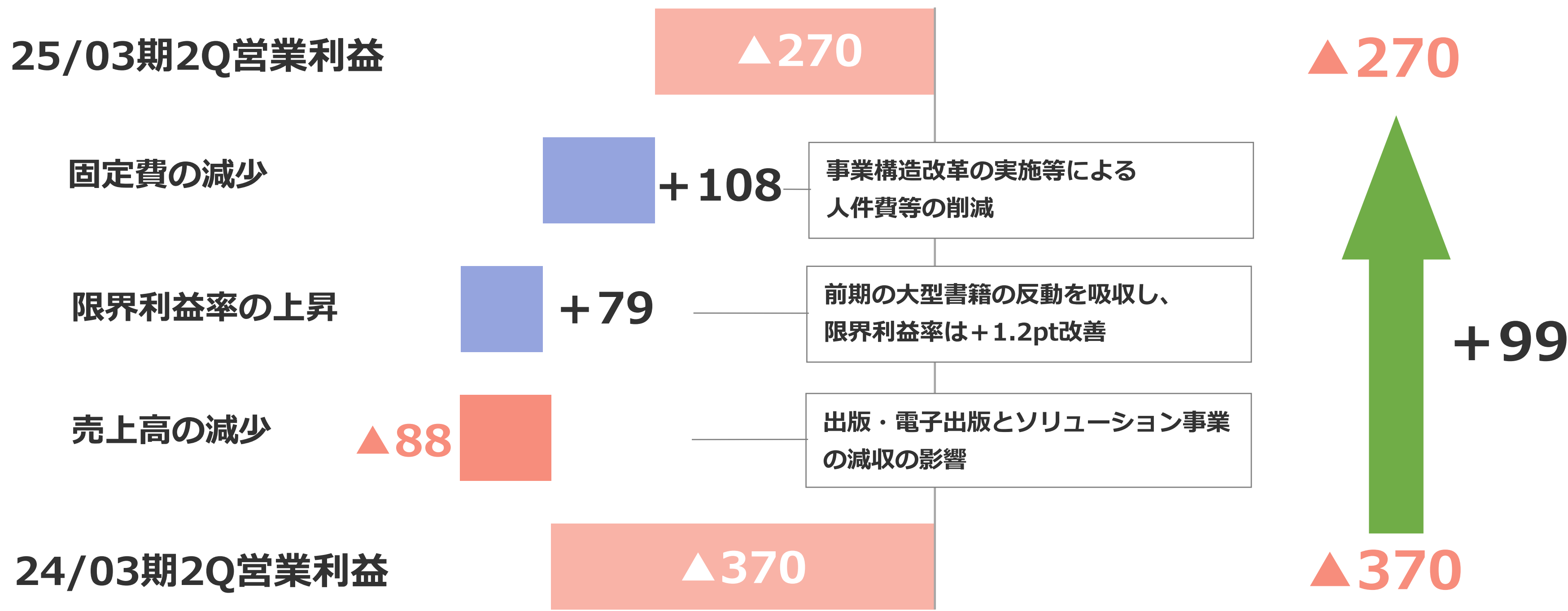
単位：百万円

	24/03期 第2四半期	25/03期(当期) 第2四半期		
	実績	実績	前期比	
売上高	7,038	6,852	▲2.6%	▲185
変動費 ※1	3,690	3,513	▲5.0%	▲177
限界利益	3,347	3,339	▲0.3%	▲8
固定費 ※2	3,717	3,609	▲3.0%	▲108
営業利益	▲370	▲270	—	+99
限界利益率	47.6%	48.7%		+1.2pt

※1変動費は売上原価（材料費及び外注費等）と販売費等を集計
 ※2固定費は売上原価（労務費と経費等）と一般管理費等を集計

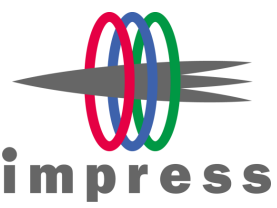
2025年3月期第2四半期 営業利益の増加要因

単位：百万円



2. 事業区分・セグメント別業績概要

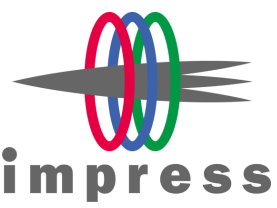
2025年3月期第2四半期 事業区分別売上高



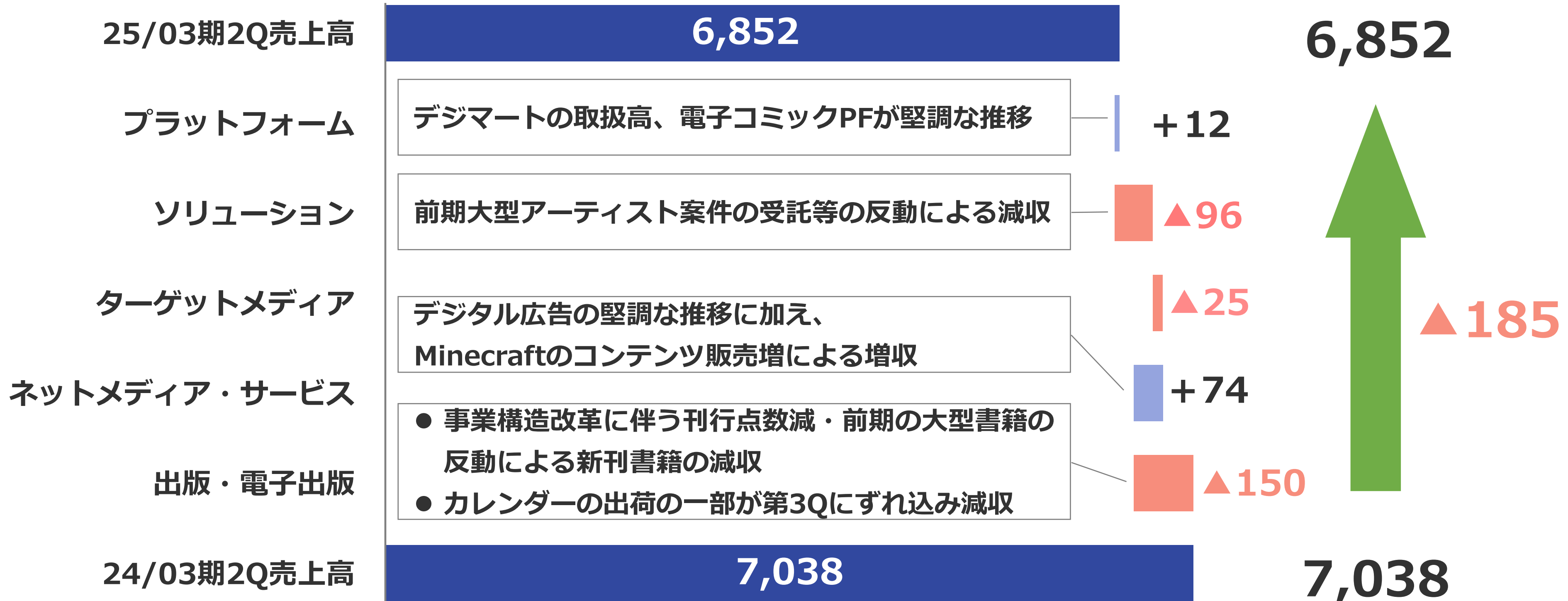
単位：百万円

事業区分	24/03期	25/03期(当期)		
	実績	実績	前期比	
コンテンツ事業	5,756	5,558	▲3.4%	▲198
出版・電子出版	3,745	3,594	▲4.0%	▲150
ネットメディア・サービス	863	937	+8.6%	+74
ターゲットメディア	489	463	▲5.3%	▲25
ソリューション	658	562	▲14.6%	▲96
プラットフォーム事業	1,281	1,294	+1.0%	+12
合計	7,038	6,852	▲2.6%	▲185

2025年3月期第2四半期 事業区分別売上高のサマリー

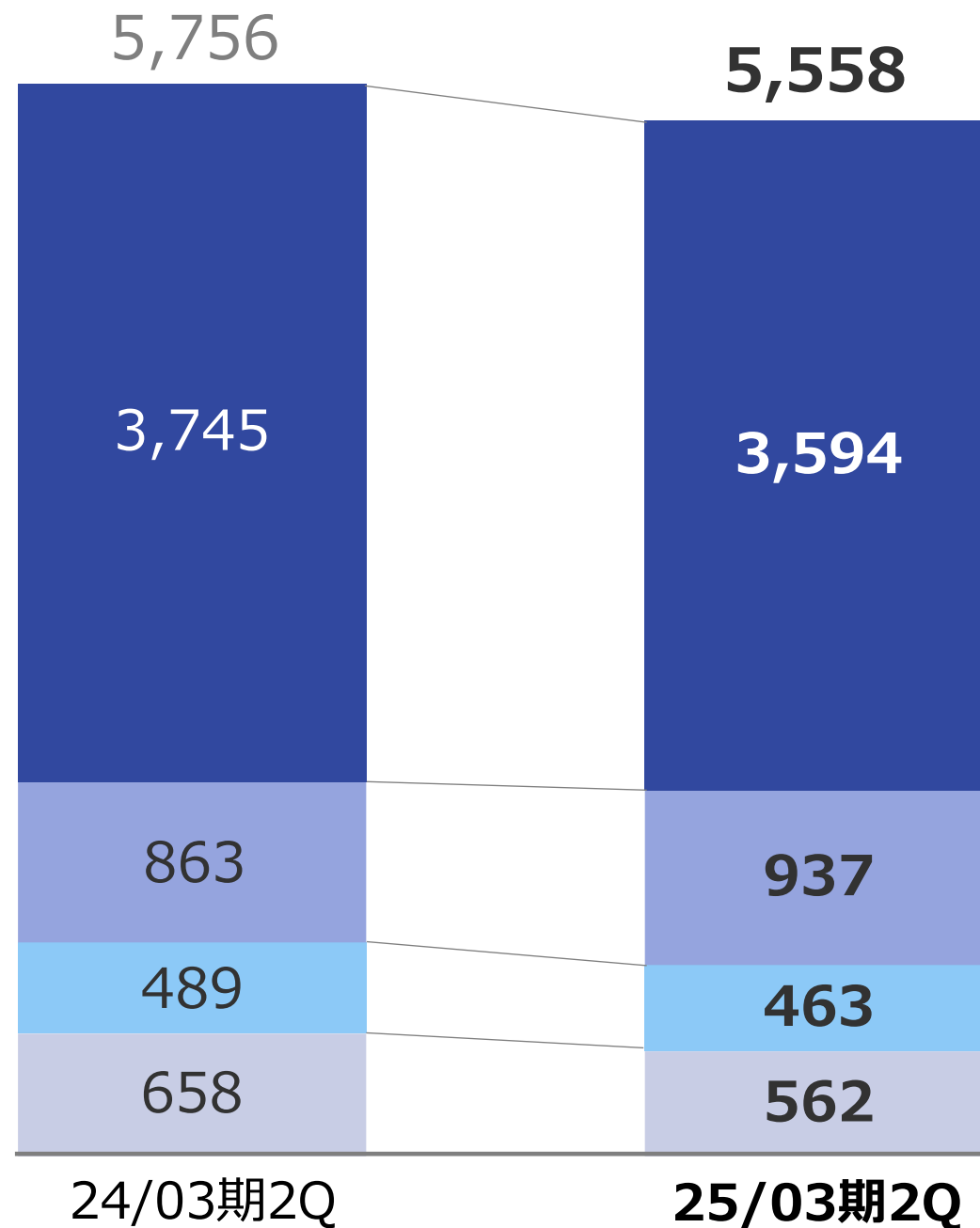


単位：百万円



コンテンツ事業売上高

単位：百万円



コンテンツ事業：▲3.4% (▲198M) の減収

出版・電子出版：▲4.0% (▲150M) の減収

- 雑誌・ムックは堅調、既刊書籍の返品の改善は想定より遅れたものの、第2Qで減少傾向が定着し、増収基調に転換。一方、新刊書籍については事業構造改革等による刊行点数の減少や前期の大型書籍の反動等で大きく減収、加えて第2Qから刊行を開始したカレンダー出荷の一部が第3Qにずれ込み、減収。

ネットメディア：+8.6% (+74M) の増収

- ITセグメントを中心にデジタル広告が堅調に推移、Minecraftのコンテンツ販売増加も加わり増収。

ターゲット事業：▲5.3% (▲25M) の減収

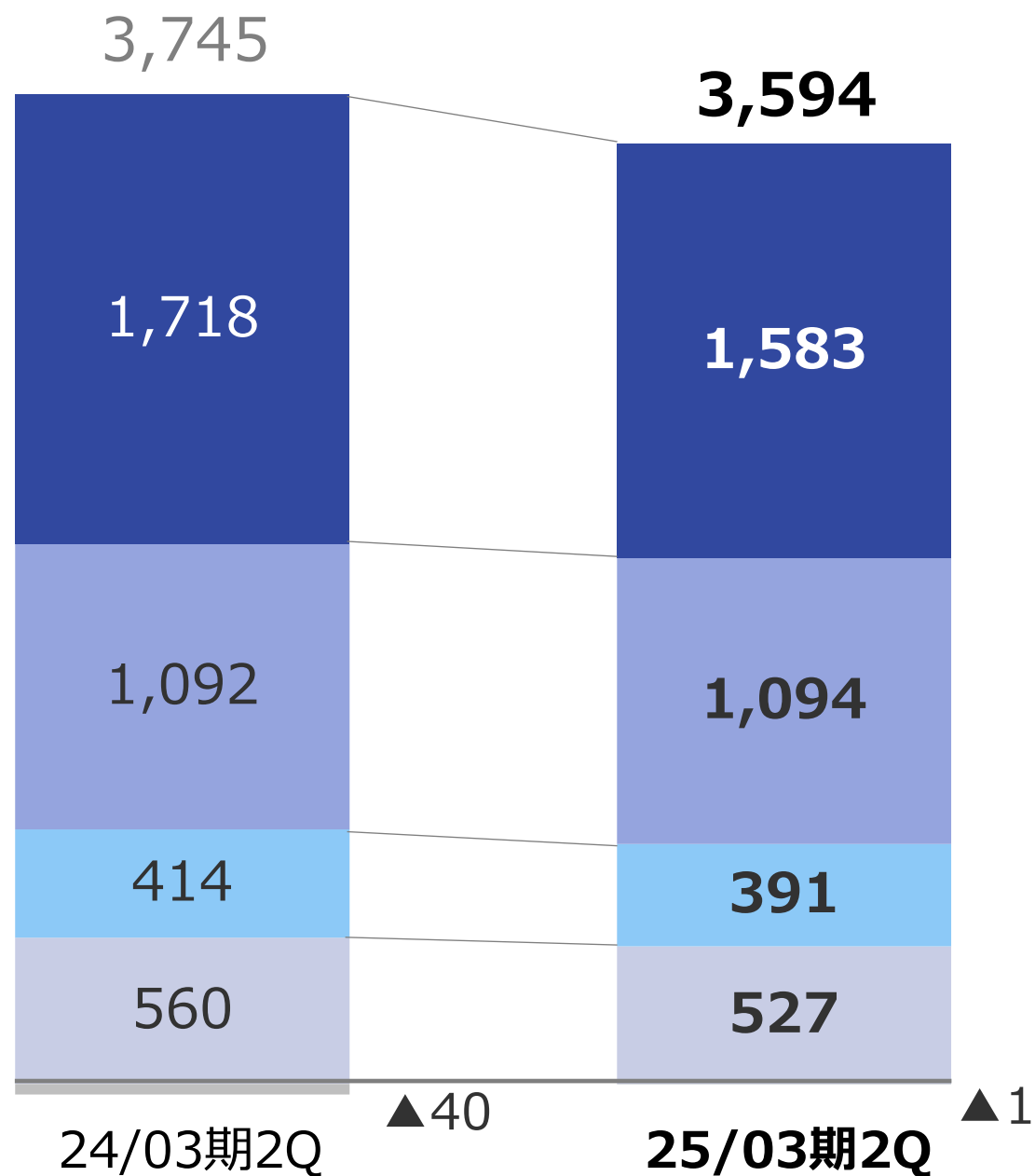
- ターゲット広告の減収。

ソリューション事業：▲14.6% (▲96M) の減収

- 前期に音楽セグメントで大型のアーティスト案件があったことによる反動等で減収。

コンテンツ事業：出版・電子出版売上高

単位：百万円



出版・電子出版：▲4.0% (▲150M) の減収

書籍：▲7.9% (▲134M) の減収

- 新刊は事業構造改革の影響等による刊行点数減 (▲48点)、前期ITセグメントのChatGPT関連の大型書籍の反動も重なり減収。
- 既刊は出荷が弱含みも、第2Qで返品の減少傾向が定着し、増収基調に転換。

雑誌・ムック・広告：+0.2% (+2M) の増収

- ムックは刊行点数の増加 (+8点) に加えて、山岳・自然でのフィギュアスケート関連の大型刊行も貢献して増収。
- 雑誌は価格を引上げながら販売堅調も、不採算製品の整理等による刊行点数の減少 (▲8点) をカバーできず減収ではあるが、想定通り採算は改善。

電子出版：▲5.6% (▲23M) の減収

- 開発中のオリジナルマンガの成果は限定的、全体的に弱含みな推移。

季節商品：▲5.9% (▲32M) の減収

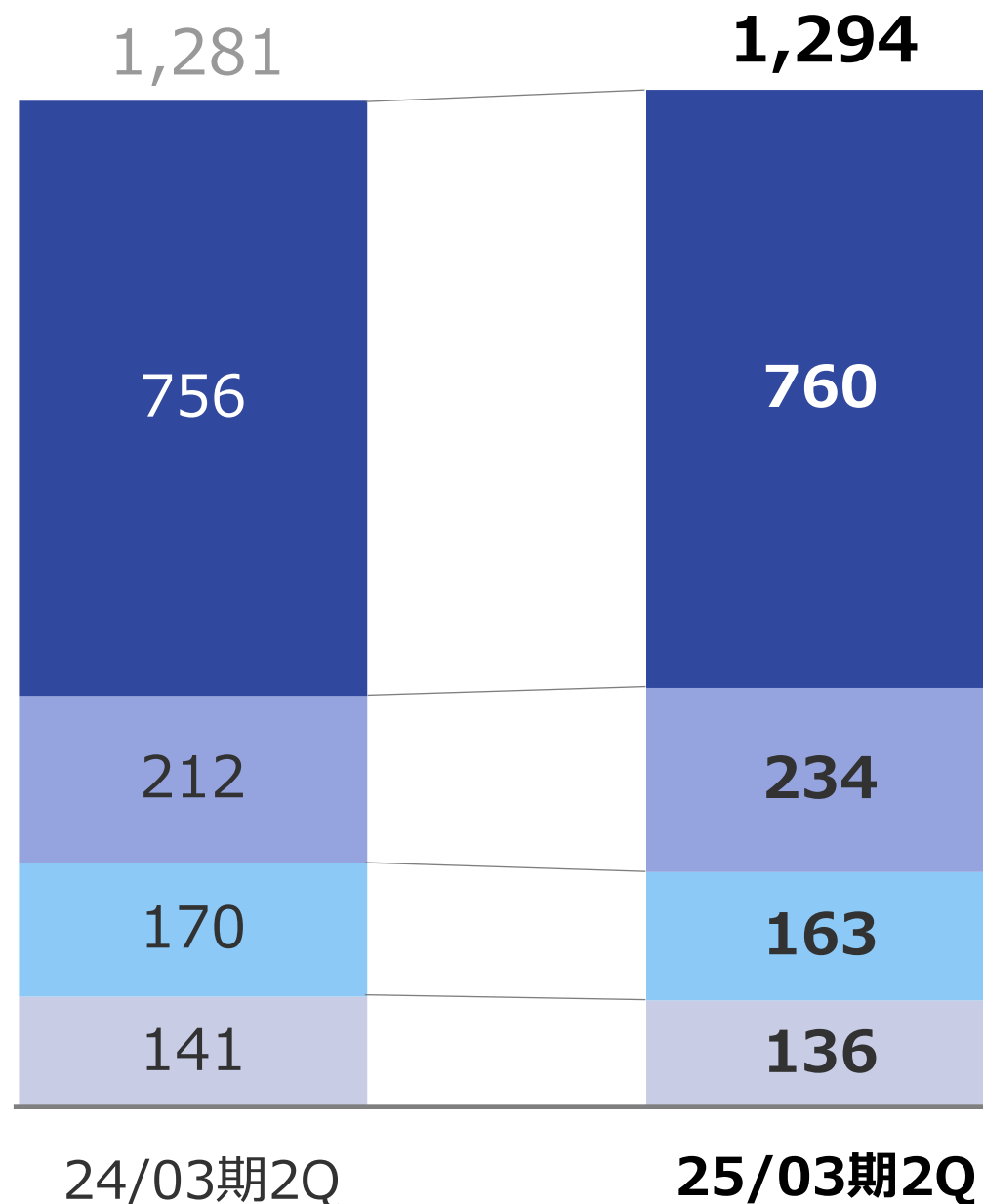
- カレンダーの刊行点数は増加 (+17点) も、出荷の一部が第3Qにずれ込んだことで減収。

その他：+38Mの増収

- 山岳・自然のイベント、物販、編集協力金等の収入増。

プラットフォーム事業売上高

単位：百万円



プラットフォーム事業：+1.0%（+12M）の増収

電子コミックPF：+0.5%（+3M）の増収

- 前期の大型開発案件の反動も、海外案件の増収に加え前期にスタートした新規の運用受託案件の堅調な推移がカバーして若干の増収。

デジマート：+10.0%（+21M）の増収

- 取引高が堅調に推移、DtoCの事業モデル開発の取り組みも本格的にスタートし、楽器店からの決済サービス収入が増加。

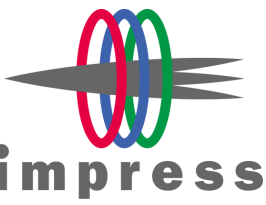
POD出版：▲4.0%（▲6M）の減収

- 個人向けPOD出版サービスにおいて、ヒット作が少なく減収。

出版・電子出版PF：▲3.7%（▲5M）の減収

- ITセグメントの電子出版PFにおいて、ヒット作が少なく減収。

2025年3月期第2四半期 セグメント別売上高・セグメント利益



単位：百万円

セグメント区分	売上高		セグメント利益	
	金額	前期比	金額	前期比
IT	2,782	▲3.5%	116	▲55
音楽	949	▲0.2%	▲52	+40
デザイン	351	▲7.2%	▲6	+97
山岳・自然	924	+3.3%	▲21	▲12
航空・鉄道	583	▲11.0%	▲97	+32
モバイルサービス	839	+0.5%	183	▲4
その他	786	▲1.9%	▲107	▲13
全社 + 消去	▲365	—	▲284	+15
合計	6,852	▲2.6%	▲270	+99

● 前期事業構造改革を実施したデザイン、航空・鉄道の営業損失が縮小、音楽も損失縮小に転換

- デザイン、航空・鉄道は前期に実施した事業構造改革に伴う刊行点数の減少等で減収も、収益性の改善や固定費の減少により損失が縮小。特にデザインについては、改善幅大。
- 音楽は、書籍の刊行点数増加も前期大型アーティスト関連の受託等の反動をカバーできず若干減収も、売上原価減少等による収益性の改善が貢献し、第2Qで損失縮小の動きに転換。
- ITは、デジタル広告が堅調な推移も、ターゲット広告が苦戦、書籍の刊行点数の減少や前期の大型書籍（ChatGPT関連書籍）の反動等による出版事業等の減収で減益幅が拡大。
- 山岳・自然は、カレンダーの出荷の一部（65M規模）が第3Qにずれ込んだ影響で一時的に損失が拡大。広告・ソリューション等の法人案件で苦戦も、雑誌堅調、ムックはフィギュアスケート関連で大型の刊行、書籍は刊行点数増等で出版事業は概ね良化の動き。
- モバイルサービスは、主力サービスは好調に推移するも、販売管理費の増加等で若干減益。その他は、受託案件減少による減収により損失が拡大。

3. 2025年3月期 連結業績予想の修正

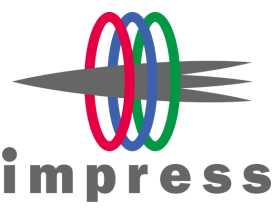
● 2025年3月期の通期業績予想は、第2四半期の業績予想の修正に伴い、下方に修正

- 第2四半期の動向は、プラットフォーム事業は想定を上回る推移も、ターゲットメディア及びソリューション事業は弱含みに推移。また、出版・電子出版事業は、既刊書籍が第2四半期（3ヶ月）に入り大きく改善も、第1四半期の遅れを挽回するには至らず。新刊書籍も刊行遅れや売行き良好書の不足で大きく想定を下回る。さらにカレンダーの出荷の一部の期ずれも重なり、売上・利益ともに期首の業績予想を大きく下回る結果。
- 通期の業績予想は、第2四半期の業績予想の修正を主要因に修正。下半期（6ヶ月）では、期首予想並みの売上高、営業利益は70百万円の増益見通し。
- 当下半期の業績動向は、ネットメディア及びターゲットメディア事業が大きく弱含む懸念があるものの、プラットフォーム事業は堅調な推移を想定。また、出版・電子出版事業は、既刊書籍は第2四半期の大きな改善トレンドの継続見込み、新刊書籍は刊行遅れの挽回に取り組む。なお、カレンダーは、第2四半期の出荷の期ずれは解消される見通し。
- 費用面では期首予想に対し120百万円規模のコスト削減を着実に進める。

2025年3月期の営業利益改善（前期比+434百万円）ポイントは以下の通り

- 上半期と同様に事業構造改革等の成果が実現し、人件費等の固定費を中心に▲150百万円規模のコスト削減の目途が立っていることに加えて、出版事業の収益力の回復の取り組みの成果が下期より実現の見通し
- 出版の収益力の回復は、書籍とカレンダー及び在庫評価の改善が主要因で、+400百万円規模を想定
 - 書籍は、第2Qから回復基調が定着しつつある既刊書籍の増収基調の維持に加え、新刊刊行の遅れの挽回と製品価格の引上げ、原価削減等で+150百万円規模の増益。
 - 季節商品は、下半期にずれ込んだカレンダーの出荷が実現、その他不採算製品の整理等による収益性の改善等で+100百万円規模の増益。
 - 第2Qから改善が見られた在庫評価額については、下半期で+100百万円規模で評価が改善。
 - 堅調な雑誌・ムックについては、上半期のトレンドを継続。
- 一方、ネットメディアについては、ITセグメントを中心に不透明感が強く、減益のリスクを織込み済み

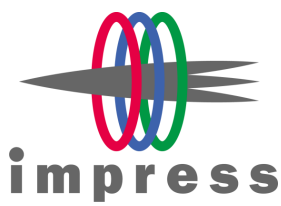
2025年3月期 連結業績予想の修正内容：期首予想からの増減



単位：百万円

	上半期 (第2四半期)			下半期			通期		
	期首 予想	当期 実績	増減	期首 予想	当期 予想	増減	期首 予想	当期 予想	増減
売上高	7,200	6,852	▲347	7,700	7,706	+6	14,900	14,560	▲340
営業利益	0	▲270	▲270	250	320	+70	250	50	▲200
経常利益	50	▲243	▲293	300	403	+103	350	160	▲190
当期純利益	0	▲266	▲266	200	306	+106	200	40	▲160

2025年3月期 連結業績予想の修正内容：前期からの増減



単位：百万円

	上半期 (第2四半期)			下半期			通期		
	前期 実績	当期 実績	増減	前期 実績	当期 予想	増減	前期 実績	当期 予想	増減
売上高	7,038	6,852	▲185	7,427	7,706	+278	14,466	14,560	+93
営業利益	▲370	▲270	+99	▲113	320	+434	▲483	50	+534
経常利益	▲333	▲243	+90	▲33	403	+436	▲366	160	+527
当期純利益	▲371	▲266	+104	▲664	306	+971	▲1,036	40	+1,077

(参考資料) 当社グループの概要

当社グループの「セグメント」と「事業」





専門書籍・雑誌



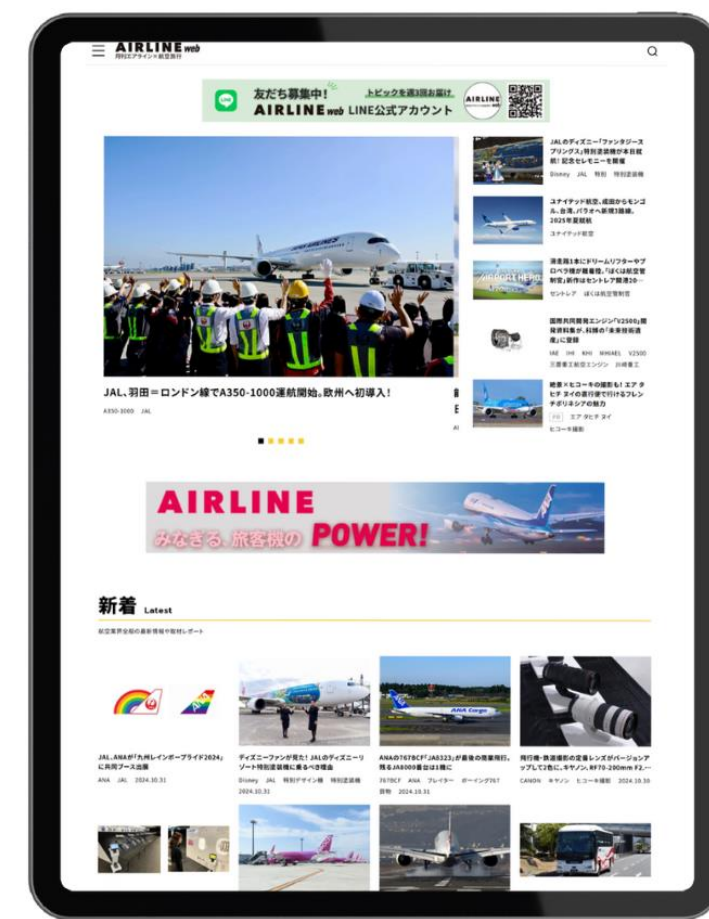
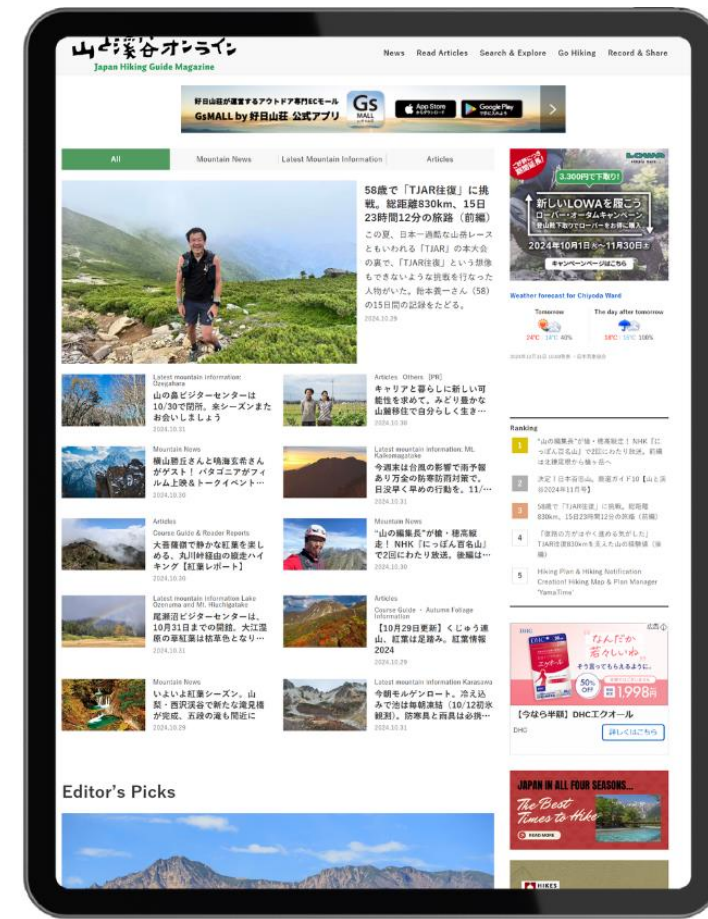
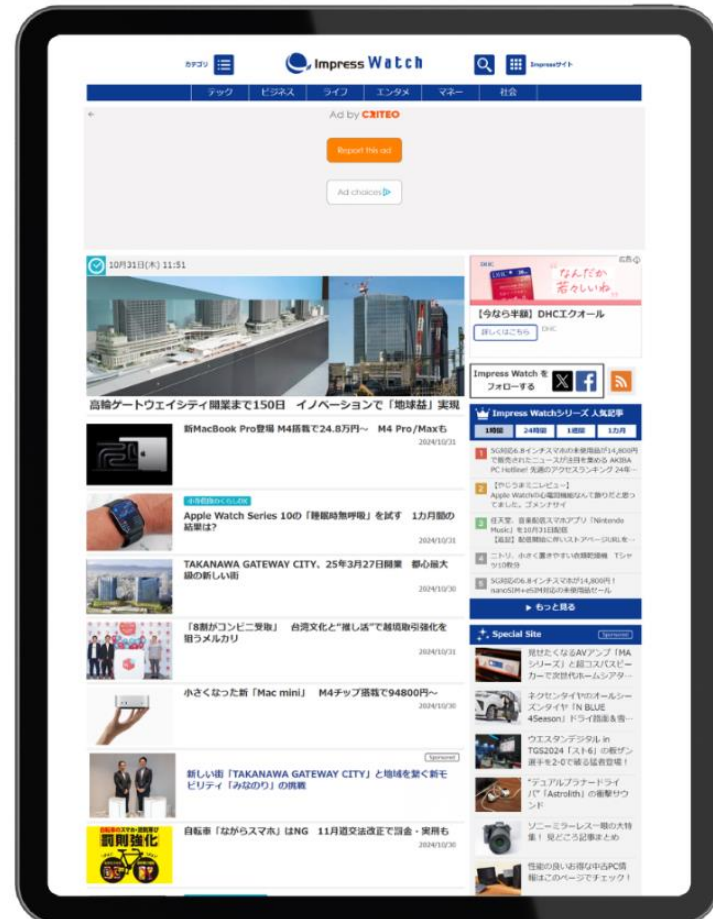
電子書籍

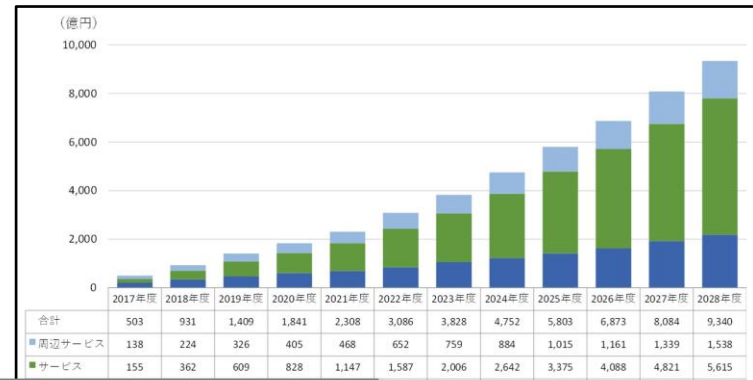


年賀状ムック
カレンダー

コンテンツ事業 [メディア&サービス事業]

ネットメディア・サービス





サービスの3つで構成される。ポット型、潜水型)の完成品機体の国内での販売金額、業務の提供企業の売上額。ただし、ソリューションの一部を推計。企業や公共団体が自社保有のドローンを活用するサービス市場は、バッテリー等の消耗品の販売額、定期メン

出所：インプレス総合研究所作成



ビジネスメディア

調査報告書

イベント・セミナー

コンテンツ事業 [ソリューション事業]

できる シリーズ7,500万部突破^{※1} 売上 No.1^{※2}
日本で一番売れている
パソコン解説書

アマゾンペイ

Amazon Pay

あなたの「おねがい」をかきとってください！
きちんと身に付き、
使い方広がる入門書。

Amazonギフトカード/あと払い CVR向上
新規顧客獲得 サブスク対応 不正取引対策

もはや常識の決済サービス。
導入メリットを徹底解説!

インプレス 特別版

9:41 ヤマスタ YA ASTA

東京多摩 ハイクスタンプラリー

2024.10.1 tue - 2025.3.31 mon

スタンプラリーのリストを表示

イベント情報

全エリア公開で百低山が勢揃い！第5弾「日本百低山スタンプラリー(中国・四国・九...」 2024-10-15

奥多摩の渓谷美を堪能する新コース開始！東京の自然を巡る「東京多摩ハイクスタ...」 2024-10-01

もっと見る

獲得スタンプマップ

2024年の記録

スタンプラリー チェックイン マイページ

福井満喫の旅

2024年春 東京多摩

福井市 まちなか案内所

TEL. 0776-20-5348

3.16 ふくいMaaS リニューアル!

福井市観光協会

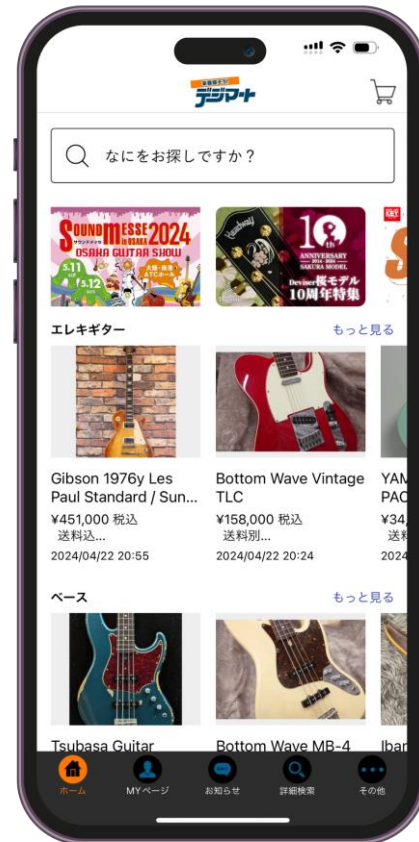
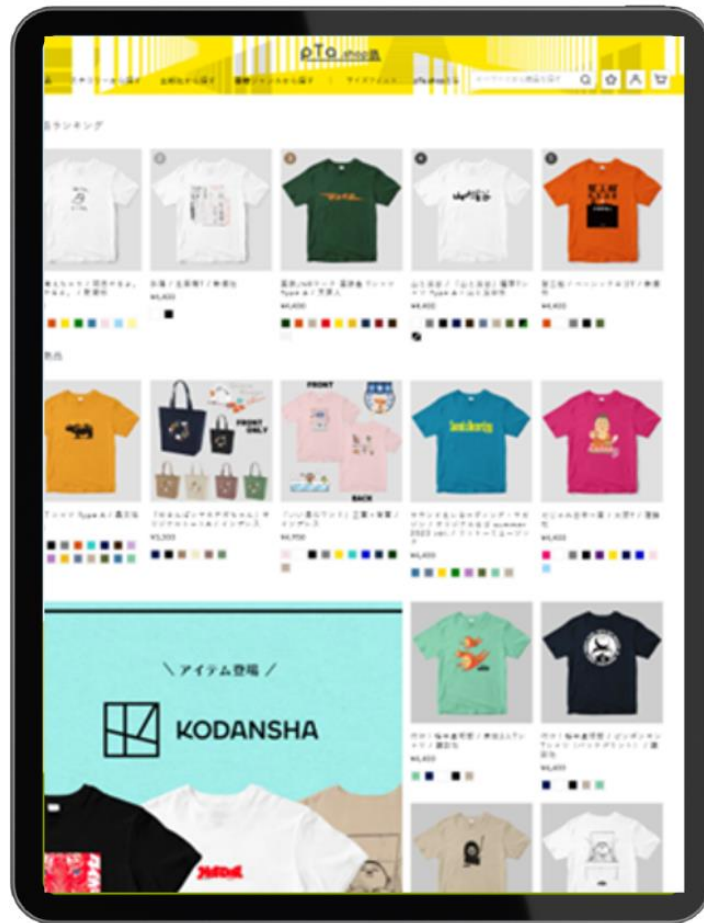
公財) 福井市観光協会

企業・自治体等のSP・PRツール、Webサイト等の制作受託

プラットフォーム事業

pTa.shop

楽器探そう!
デジポト



PUBFUN



EC
プラットフォーム

電子コミック
プラットフォーム

POD出版
プラットフォーム